第三章　25）レスチンガ耕地（レスチンガ駅）

モジアナ線リベイロン・プレート駅〜フランカ駅（ジルセ、ビスコンデ、パルナイバ、ブロドスキ、カリベ、バタタイス、マカイウーバ、、ボア・ソールテ、マンジューバ、レスチンガ、フランカ）

＊原口崎蔵通訳と第３回移民（厳島丸）（「移民 40 年史」）

＊難波三郎治、1914 年５月、帝国丸、島根県飯石郡赤来町出身、西島奏 (すすむ) の構成家族として 14 歳で渡伯。レスチンガ駅付近に配耕、同船の熊本県人 14 家族、島根県人４家族と共に就労、後コリーナ、ベベドウロ、ピタンゲイラでは借地で米作に従事。（「島根県南米史 342」ページ）

＊仲早来、1914 年５月、帝国丸、福岡県朝倉郡大福村出身、従兄大田久次郎氏家族構成員として渡伯。レスチンガ駅付近で義務農年遂行後、ノロエステ線に移転。1920 年に祖国に於いて家督を相続すべくして帰国。1936 年１月ラプラタ丸で再渡航、母、弟夫妻、従兄弟等合計 19 人で渡伯する。後年トレスバラス移住地バルサモ区に入植する。（「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」586 ページ）

＊大田久次郎、1914 年福岡県浮羽郡、27 歳で渡伯（「ブラジル同胞活躍の姿」117 ページ）

＊松岡福蔵、1919 年９月、博多丸、熊本県上益城郡、農業に３年従事、1929 年ゴヤス州ゴヤニア市カンナ・ブラーボ植民地に移転。（「ブラジル日系紳士録」885 ページ）

＊乾末広、1926 年７月、博多丸、大阪府北河内郡、配耕後農業に従事、のちグァラに移転米作、雑作等に従事後年グァイラ在住。（「ブラジル日系紳士録」725 ページ）

＊河坂三郎、1926 年 11 月、ハワイ丸、愛媛県北宇和郡、レスチンガ駅サンタ・アデリア耕地配耕、1958 年ジャカレイに移転。（「ブラジル日系紳士録」379 ページ）

＊渡井光雄、1926 年 12 月、ラプラタ丸、静岡県富士宮市出身、配耕後、1931 年イタケーラ市コロニア植民地に移転果樹園経営。（「ブラジル日系紳士録」272 ページ）

＊加藤操、1928 年１月、サントス丸、愛媛県宇摩郡土居町、レスチンガに配耕、てんてんと転じて 1955 年グァイラ市にて「ロージャ・カトウ」開業。（「ブラジル日系紳士録」）

＊住田輝雄、1930 年 11 月、ブエノスアイレス丸、京都市右京区嵯峨出身、レスチンガに配耕、転じてサンマルチーニョ就労後年ロンドリーナ在住。（「ブラジル日系紳士録」810 ページ）

＊金松栄吉、1931 年６月、サントス丸、富山県中新川郡五百石町出身、レスチンガ駅アウシリアドール耕地で３ヶ年就労後、ノロエステ線チビリサ駅付近に移り養蚕飼育に１ヶ年従事する。その後パラナ州トレスバラス移住地セボロン区に入植する。（「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」318 ページ)

＊斉藤伝四郎、1931 年６月、サントス丸、富山県婦負郡八尾町出身、レスチンガ耕地に配耕後、バウルー

市外チビリッサ植民地にて就農、1937 年カフェランジアに移転タンガタ移住地在住。

付記 : 父達がグァタパラ移住地入植 15 周年記念行事挙行の慰霊碑建設の際、趣意書を携え建設趣旨を呼びかけた時、特に快く協力して下さった人がこの斉藤氏でありました。また 1978 年グァタパラ養蚕青年部がリンス・タンガラ移住地を視察の時、一晩分宿、その際私（林良雄）がお世話になった宿が斉藤氏宅であり、夜遅くまで移民のこと、特にグァタパラとは兄弟のような縁の深い間柄を知らされました。

平野植民地入植犠牲者を祀る「鎮魂碑」
1978 年グァタパラ養蚕青年部視察の際スナップ 後列左２番目の方が斉藤伝四郎氏

＊玉井竹雄、1934 年 5 月、アリゾナ丸、北海道夕張郡出身、配耕後農業に従事、転じてバウルー富士植民地で綿作、後年カルロポリス在住。（「ブラジル日系紳士録」757 ページ）